

強者の戦略

論述世界史〔大阪大学 2003 年前期 第1問より〕

今回は大阪大学の問題をピックアップしてみました。地域史としてしばしば出題はあるものの、案外手が届いていない人が多かったです。短い文章ですが、台湾史を概観しておきましょう。

では問題の確認です。

17 世紀以降、現在に至る台湾の政治史を叙述しなさい(150 字程度)。

政治史だけなので、どんな勢力がこの地を支配したか、がしっかり書ければ充分ですね。通史をざっとおさらいしておきましょう

<17 世紀以前の台湾>

台湾は古代の中国大陸の人々から存在を認識されてはいました。隋代には台湾を探検したなどの記録もあります(当時は流求と書いてあります)。漢民族が本格的に移住するのは 17 世紀以降です。それ以前は東南アジアあたりから移住していたとされる人々がいくつもの部族に分かれて暮らしていました。漢民族からは「化外の地」と言われて、そこに住む人々は蛮族と言われていました。中華文明の外、という認識です。台湾の領有が確認できるのは、元王朝からだと言われているが、それでも台湾近くの澎湖諸島あたりまでだったようです。

台湾が本格的に開発されていくのが、16 世紀の明代からだと言われているが、倭寇の活動が活発になり、その拠点として使用されるようになったからだとされています。16 世紀は大航海時代ですから、このころ少しずつ西洋人にも認識されています。日本への鉄砲伝来もザビエルのキリスト教伝来も、台湾を経由したのだと考えられています。西洋人が台湾を訪れた時に美しい島という意味で「フォルモサ」という名前呼びました。今でもその名称で呼ばれる

ことがあります。

<17 世紀以降の台湾>

○17 世紀 オランダ→鄭氏→清王朝

1624年にオランダ東インド会社が現在の台南市あたりを中心とした地域を制圧します。ゼーランディアという城を築きます。スペインもこの地域を狙っていたようですが、オランダはスペインを駆逐することに成功します。こうして台湾はオランダの植民地となりました。

1661年に「反清復明」を掲げ、明の王族を奉じた鄭成功(国姓爺と言われているのは知っていますね)が台湾へと入ってきます。

鄭成功の父は鄭芝竜という商人、母は日本人で田川マツといます。鄭成功は平戸で生まれました。明が1644年に滅亡すると、明の皇族達を奉じた勢力が各地に生まれます(こうした勢力を南明ということもあります)。鄭芝竜も皇族を奉じて抵抗を続けます。後を継いだ鄭成功は北伐を試みたりもしますが、清側の軍は強く、また1661年の遷界令などもあって、拠点を台湾に移そうとします。鄭成功の攻撃によって1662年にはオランダのゼーランディア城が陥落し、オランダは台湾から駆逐されました。鄭成功はその後すぐ亡くなりますが、以後「鄭氏台湾」政権が続きます。しかし1683年に清王朝の康熙帝によって台湾は制圧され、以後清王朝の統治となります。

○1683年～1895年 清王朝の支配

鄭氏台湾が滅亡してから、日本が統治するまでの間、清王朝がこの地を支配します。徐々に漢民族も移住していったようです。しかし清王朝は台湾を「化外の地」と考え、あまり投資をしなかったため発展は遅れました。しかし米が収穫でき、後には茶やサトウキビなども収穫できるようになります。

しばらく清王朝の支配が続きますが、帝国主義の時代となり、台湾に変化が訪れます。

強者の戦略

19世紀後半に宮古島の島民（琉球島民）が遭難して台湾に流れ着き、台湾原住民に殺害されたという事件が起こっています。日本は清王朝に嚴重に抗議しましたが、中国のスタンスとして、台湾は「化外の地」で統治が及んでいないとしました。これに対し、日本は1874年に台湾出兵をおこなっています。ここでは琉球島民は日本人か、台湾先住民は清王朝の支配下にあるのか、が日清間で問題となりました。

○1895年～1945年 日本の統治

1894年から日清戦争が始まりました。日清戦争で勝利した日本は下関条約で台湾と澎湖諸島を獲得します。このとき日本は台湾総督府を置き、はじめての植民地経営に乗り出しました。以後、日本はこの支配は1945年まで続きます。

○1945年以降～現在

1945年に日本が降伏すると、GHQからの委託に基づき、中華民国が台湾に進駐しました。国民党による支配はひどく、汚職などはすさまじく、本土の国共内戦の影響で送られてきた軍人や官僚の質も悪かったようで、治安は悪化しました。台湾の人々はかつての支配を思い出します。同化政策など厳しくとも不正はなく、帝国大学もあって教育もインフラも整っていた日本の統治時代（経済は東京市と同じ水準）を知っていた人達は大いに失望し、不満は爆発しました。

これが1947年の二・二八事件となります。中国国民党政権（外省人：中国本土から移ってきた人々）による民衆（当時はまだ日本国籍を有していた本省人：台湾人＋日本人）への弾圧、虐殺の引き金となった事件です。数万にもおよぶ犠牲者を出したとも言われます。

1949年に本土での国共内戦に敗れた蒋介石率いる国民党は首都を南京から台北に移し、本拠地を台湾に遷します。この時期戒厳令が敷かれ、1987年まで続きます。

冷戦下のアメリカを中心とする西側諸国は、中華人民共和国に対ソ連で同調して接近し、1971年には国際連合で「中国代表権」が中華人民共和国に移り、これに対し台湾の中華民国は国連およびその関連機関から脱退します。アメリカのニクソン大統領が1972年に中華人民共和国を訪問すると、西側諸国はこれに同調し、台湾と国交を断絶していく国が現れました。日本もこれに同調しています。

蒋介石の死後、台湾の総統は嚴家淦（げん かかん）が継ぎ、その後は蒋介石の子である蔣経国が継ぎました。彼の時に戒厳令は解除されました。続いて総統となった李登輝の政権下、1996年に国民党一党独裁が終わり、選挙によって民主的に総統を選ぶようになりました。李登輝以降は民主進歩党の陳水扁が総統となって民主的に政権が交代しました。国民党の馬英九が続き、2021年現在は民主進歩党の蔡英文が総統となっています。現在の総統は新型コロナウイルス対策のニュースなどで顔を見たことがある人が多いかもしれません。蔡英文総統は日本語を学んだことがあるそうで、Twitterで日本語のメッセージを出されていることもあります。

現在までの台湾史をざっと概観してみました。教科書や用語集の内容もしっかり確認してください。

では解答例です。

【解答例】

17世紀にオランダが進出してゼーランディアを拠点としたが、鄭成功が駆逐、台湾を反清の拠点とした。鄭氏を滅ぼした清は台湾を直轄、日清戦争後は50年間日本の植民地支配を受けた。日本の敗戦で中国支配となり、国共内戦に敗れた蒋介石が移り、台湾国民政府を樹立、国民党独裁が続いたが、現在民主化、政権交代が実現した。（150字）

強者の戦略

受験生にとっては手つかずになってしまうところ
かもしれません。台湾の他、琉球(沖縄)なども一緒に
しっかり復習しておいてくださいね。

北林久忠